
愛される才能

新垣 柚子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛される才能

【コード】

N3900BA

【作者名】

新垣 柚子

【あらすじ】

突然 結婚してしまった。どーなるの？
初めての作品です。
ゆるーく身守って下さい。

1 プロローグ

就職して、キャリアアップを目指して
仕事一筋頑張つて来たのに・・・

突然、結婚してしまった。

上司の1人息子と。

昨日、今日 会ったヒトと なぜ？

自分が1番ビックリしているのではないか？

25歳。 これから、仕事にも、お金にも、時間も余裕が出来て
これからって時に！

上司の神崎社長には、可愛いがって頂いたが
今思うと、ワナだった。

社長秘書に、抜擢されたのは 息子の嫁さがしだった。

あの日の感動を返して欲しい・・・
利息をつけて。

わたくしは、三崎 沙耶と申します。

ごく普通の家庭に育ち、大学まで目立つ事があまり無く 平凡な人
生を送って参りましたが

去年の人事異動で 社長秘書に・・・
なぜ？ワタクシなのか？疑問しかなかったのですが、そこは会社の
組織。

なにはともあれ、こなしていかなくては。
あっという間 半年間でした。

そして、先月 仕事中に 突然
『ウチの息子と結婚してくれ』

社長に言われたのです。

『は？』

何言ってるの？上手く理解出来ずに数秒・・・

『だからね？ウチの息子のお嫁さんになって欲しいんだ』

なぜ？なぜ？

どーして？

『どーして社長が、私にプロポーズするんですか？本人じゃなくて？』

社長は、だまっている。そして、

『そこ？突っ込むところ』

慌てて、

『是非ともお断りさせて下さい』

『一度会ってから、返事をくれないかなあ？』

一応、僕は社長なんだから、』

『結婚なんて、今は考えてませんから』

『業務命令だ』

『そんな！パワハラですよ！！』

『なんとでも』

そこで、ハッと気がついた。

息子さんから、断られる可能性の方が大きいことを。

神崎社長は、見た目麗しくとても、51歳には見えない。

その息子さんともなれば きつと容姿端麗に

違いない。

私は 至って普通（哀しいかなあ 自分で言うのも） だからね？

一度会ってしまえば、

向こうから お断りされて 丸く収まるだろうと考えついた。

よしっ？

『わかりました。業務命令とあらば、お受け致します。』

『じゃあ、明日の午後7時に社長室』

ニコ×？しながら 言われたので

『了解致しました』

あくまでも、業務命令として返答した。

はあー 疲れた。今日何度目かのため息を

吐いて 就業時間が終わった。

とりあえず、帰る支度を済ませて

携帯を取り出してメールをする。

最近、同窓会で再会した中学時代の元彼だ。

『今から、帰ります』

なんとも味気ない内容だが、大丈夫。

数秒後、受信メール。

『相変わらず、返信ハヤっ！』

と、独り言を呟きながら メールを見ると、

『じゃあ、1時間後に いつもの所で』

次の日、早々と仕事を終わりにする社長の声が響く。いつもよりも

甲高いトーンで…

『さあ！心の準備はいいかい？』

ため息を押し殺し、

『はい、社長』

時計は、6時55分をさしていた。

もう、逃げられない…

そんな心境を察したのか、突然 肩に手を置かれた。

『大丈夫、自慢の息子ですから、安心して』
それは、そうでしょ！親から見たら！
言葉には出さず、ニコツと笑うだけで返答した。

しかし、約束の時間になっても 現れない…
どうしたものか？

社長は携帯を取り出し、電話をかけている。
時間にルーズな人は、キライです。

30分過ぎると、流石に社長が慌てて謝る。

『申し訳ない、時間に遅れて来るなんて
全く、許されん事だ！』

『そーですね』
少し、辛辣に答えて鞆に手をかけた。

『それでは、社長、帰ります』
ホツとした。会う事すら拒否したいのだろうと、勝手に解釈して
席を立った。

社長に退席の挨拶を済ませるとドアに向かった。

ドアの前まで行くと、突然 扉が開き、人が立っていた…
ビックリして、視線を上げると ムスツとした顔の男性と目が合っ
た。

私が声をかけようと一歩下がると、
後ろから低い声が響く。

『帰れ。』

今まで聞いた事のない、社長の冷たい怒りを表した声だった。
どーして、私が帰ってから現れてくれないんですか？

タイミングが悪すぎて苦笑してしまう。

そんな事を思っていると、目が合ったまま動けずにいた私に向かっ

て

『遅れて申し訳ない。』

謝罪を口にした男性。思ったより男前だ！

って、違う！

『初めまして。わたくし、社長秘書の三崎と申します。大変失礼ですが、そちら様は？』

なんとか声を出す。

『初めまして。神崎 悠斗です。今日は、父が無理を言っ
て 申し訳ない。それなのに、遅れてしまって、気分を害してしまっ
たでしょうね。』

真摯に謝る姿に感心していると、社長が…

『三崎さん、私からも謝ります。申し訳ない。』

社長に謝られて困ってしまった。

なんて返答したらいいんだろう？

遅れた理由は一切言わないので、聞かないので、思わず口にしてしまった。

『わかりました。謝罪は、受け取りました。

でも、なぜ遅れたのですか？

もしかして、大事な用事があったのでは？』

今だ動けずにドアの前にいる人と、背後を交互に見ると、緊迫していた空気が変わった。

『何を言っても、言い訳になりますから』

社長が言った。潔く謝ることが正しいらしい。少し、感心してしま
う。私なら先に理由を

(言い訳)を口にしただろう。

『さて、謝罪は聞き入れて貰ったので、

仕切り直しましょう。改めまして、三崎さん、息子の悠斗です。ヨ
ロシクお願いします。』

こうして、いろんな意味で最悪の出会いを果たしたが、私は墓場の
入り口に立ってしまった事に、気がつかなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3900ba/>

愛される才能

2012年1月10日23時51分発行